

南木曾町と名古屋外国語大学との単独インターンシップ事業

主催：南木曾町 共催：(公財)妻籠を愛する会 協力：名古屋外国語大学

期間 平成30年8月18日 及び 8月22日～28日 (8日間)

○名古屋外国語大学 世界共生学部

名古屋外国語大学 世界共生学部 世界共生学科 2年生 3名

○受け入れ先

公益財団法人妻籠を愛する会 (受入先・講師依頼)

local standards (講師依頼)

○事業の計画

・インターンシップ研修事業

8月22日～28日(6泊7日)外国人観光客等へアンケート調査、地域行事へ参加

※観光客の減少傾向を認識しつつ、地元の店舗等ではどのような対策を行っているか・外国人観光客は妻籠に何を期待して訪れるか・購入するお土産は・どのような取り組みを行えば妻籠の認知度があがり、日本人、外国人問わず訪れるようになるのか・・・等といったアンケート調査を行うことで見えてくる次世代を育むための取り組みを模索する。成果をまとめ、2月に妻籠において開催される冬季大学にて報告を行う。

・南木曾町に滞在していただき、この地域の特徴的な職業体験や地域文化等の学習ができる環境を提供する。

・南木曾町、妻籠を愛する会、大学との繋がりを生かして、この地域ならではの特色ある職業体験を実施する。

○結果

アンケート実施数63件(1グループにつき1枚)、イタリア等の欧米の外国人観光客がほぼ半数を占めた。アンケート結果を妻籠宿の魅力と若者とのつながりを感じられる。

アンケート結果を分析し、来年2月の妻籠冬期大学講座で報告をいただく。

人とのつながりをテーマにした考察や、学生が感じた魅力 昔の人の知恵や工夫、見渡す限りの自然、町並みから感じる歴史、歩きやすく平坦な道、都会では見ることができない綺麗な星空、人の温かさ、来て始めてわかる魅力に溢れている等。

大学生から見た改善点として、中山道の途中に水分補給が出来る場所があるといい。また来たいと思わせる何かが必要、他の地域との協力が必要、若い人や外国人向けの設備、和カフェ、着付け、ゲストハウス、バー、体験型サービスの提供。

木曾広域連携インターンシップ事業

主催：南木曾町 共催：南木曾町社会福祉協議会 協力：名城大学

期間 平成30年8月20日～31日 (12日間うち研修日数10日間)

○名城大学

名城大学 経営学部 国際経営学科 3年生 1名

○受け入れ先

南木曾町社会福祉協議会、南木曾町デイ・サービスセンター

○事業の計画

・インターンシップ研修事業

8月20日～31日 福祉介護補助

○南木曾町の研修結果

・介護業務の補助という事で現地での作業補助を行った。人の役に立ちたいという思いを持って研修に臨んでいたように思える。

・研修先にもなじみ、たった2週間という期間であったが職員の方々とも打ち解け、信頼され、利用者の方に頼られていた。積極的に人と関わるように心がけており、常に笑顔で相づちを交え接している場面を見ることが出来た。

・宿泊先である結い庵については居心地がよく、他のお客さんやオーナーとのコミュニケーションも良くレポート等の作成も集中して行えた。

木曾広域連携インターンシップ事業

主催：南木曾町 共催：公益財団法人妻籠を愛する会 協力：日本福祉大学

期間 平成30年9月3日～14日（12日間うち研修日数10日間）

○名城大学

日本福祉大学 経済学部 経済学科 3年生 4名

○受け入れ先

公益財団法人妻籠を愛する会

○事業の計画

- ・インターンシップ研修事業

9月3日～14日 主に外国人・日本人観光客へのおもてなし・アンケート調査

○南木曾町の研修結果

- ・天候に恵まれず様々な体験が出来た様子だった。人数が4人と多く、実習中、時間を持て余すこともあった。
- ・前理事長の小林さんに講義いただき、妻籠のことを学んだ。妻籠の現在の状況について理解を深める。
- ・宿泊先は柏屋にて2週間過ごす。隣接の方へ挨拶を行い、自分たちなりに快適に過ごせた様子。
- ・途中台風に見舞われたりと予期せぬ状況となったため、愛する会、町と連絡を取り合いスケジュール変更を臨機応変に行い調整した。積極的に関係者（町、愛する会、タクシー会社）等とコミュニケーションを取ろうとする姿勢があった。
- ・のこぎりなどを使い中山道の倒木などの除去、囲炉裏の火をおこす、薪割り、薪運び、旅人の荷物預かり、引渡し等の力仕事等々、「中山道を歩く」マップの作成、普段の生活とは違った作業もできた。木曾節を聞くことが出来た。
- ・SNSを活用し、妻籠宿の情報を広める事業を行う。わちのや、岩井屋、おもて、満寿庵、ゑびや等お店の方への対応、依頼、写真撮影等の了承を得て行うことが出来た。